

あすならホーム畝傍 小規模多機能型居宅介護 運営推進会議議事録

開催日時	2025年3月21日(金) 10:00~12:00																											
運営推進会議メンバー (参加者)	1. 利用者、家族: 1名 2. 地域代表: 3名(民生委員会長)、(まちかどネット畝傍 2名) 3. 市・包括職員: 1名(榎原市地域包括支援センター 南エリア) 4. 職員: 5名																											
利用者登録状況 (3月10日現在)	1. グループホーム: 15名 2. 小規模多機能型居宅介護: 29名 3. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護: 59名 4. 訪問看護: 24名 5. ケアプランセンター: 91名(要介護) <小規模多機能の利用者の介護度> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>要支援</th><th>要支援</th><th>要介護</th><th>要介護</th><th>要介護</th><th>要介護</th><th>要介護</th><th>合計</th></tr> <tr> <th></th><th>1</th><th>2</th><th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th><th></th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3月</td><td>1</td><td>0</td><td>5</td><td>3</td><td>8</td><td>5</td><td>7</td><td>29</td></tr> </tbody> </table> ※平均介護度は 3.08 の状況 ※泊り平均 8.3人 通い平均 17.9人		要支援	要支援	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	合計		1	2	1	2	3	4	5		3月	1	0	5	3	8	5	7	29
	要支援	要支援	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	合計																				
	1	2	1	2	3	4	5																					
3月	1	0	5	3	8	5	7	29																				
報告事項	◎ホームの取り組み 1. 参加者の数名は、運営推進会議の参加が初めてとなる方がおられるため、あらためて「運営推進会議」、法人「社会福祉法人協同福祉会」及び「あすならホーム畝傍」の概要を説明した。 2. 地域貢献活動について <u>サロン活動</u> (1) ランチ企画 月6回(0と5のつく日)実施。 ①目的…家ででの閉じこもり生活を開放し、社会性を保つと同時に、栄養状態の維持・改善に寄与する。 ②運営 1) 新型コロナウイルス感染防止に留意。2) 自宅での閉塞感の解消と健康づくりのため、リハビリ体操と口腔体操に取り組む。 3) 暮らしの知恵を学び、生活に役立てるため、毎月テーマ「ヒートショック予防」などを決め、学習や情報提供に取り組む。 ③現状…毎回、17名前後の地域の方が参加。 <u>つながり連絡員制度</u> ・安心を届けるため、サロン活動へのお誘い、安否確認(脱水・熱中症、自然災害) <u>学習会・その他</u> (1) 春と秋の「あすなら学習会」を春3回、秋4回実施。お役立ち情報の学習、あすならホーム畝傍の喜ばれた事例紹介、ならコープの商品紹介、意見交流。 ・春の学習会日程 4月25日(金)、5月17日(土)、6月18日(水)、6月30日(月) (2) 福祉講演会(法人)…毎年、年2回開催。 (3) 福祉学習会(法人)…年4回程度、テーマを設定し県内各地で開催。 (4) 買い物支援…買い物に不便さを抱える人のために、ならコープの商品を積ん																											

だトラックが週1回（土曜日）、「移動店舗」が巡回。
(5) ユニバーサル就労…精神的・社会的な要因で就労に困難を抱える方に対する就労支援。2月から、新規の就労者を受け入れる予定。

3. 樫原市地域包括ケアシステム連絡会の取り組み

- (1) 当会は、地域包括ケアシステム構築のため、樫原市内の地域密着型サービス事業所が連携し、学習や交流を通じて、職員のケアの質の向上、事業経営・運営の能力の向上を進め、樫原市民に貢献し、住み慣れた地域で安心して暮らせることを目指す。2021年12月17日発足。主な活動…事業者間の学習、交流。年4回程度。
- (2) 2024年8月30日学習会開催。テーマ「認知症の人の意思決定支援、ACP」（講師：加納麻子医師＜社会医療法人平和会吉田病院＞）。参加23名。
- (3) 2025年1月28日10:00～12:00講演会。テーマ「認知症のある方が住み慣れた街で安心して暮らせるために備えたい理解」（講師：大石 智（北里大学医学部精神科学 講師）。参加80名。

4. 感染症予防：

＜法人では、11月～3月を「感染症予防月間」と位置づけ、取り組みを強化＞

(1) 新型コロナウイルス対策＜with コロナ＞

- ①現状 この2カ月発生なし
- ②予防 1) 利用者…定期的なワクチン接種 11月5日
2) 職員…ワクチン接種の奨励。発熱時の報告と受診。家族の発熱時の報告。
3) 面会…発生時の中止。通常において、居室での家族との面会は感染予防の上、15分以内。面会時間が15分以上の場合、面会者が3人以上の場合は、サロンにて。フロアーは厳禁。

(2) インフルエンザ

- ①現状…2月3日、職員が陽性
- ②予防接種…利用者（グループホーム等）11月5日。職員：11月12日。

(3) ノロウイルス（感染性胃腸炎）

- ①3月5日～、グループホームにて、入居者及び職員で嘔吐や下痢症状が発生。

(4) 会議、研修など

- ①事業所…感染対策委員会（年2回）、感染症研修（年2回）
- ②法人…感染症予防対策委員会（11月）、全体会議（秋）

5. 利用者に対する取り組み…「たより」参照

(1) 入居者の様子

- ①お出かけ… 原則、制限なし。ただし、感染防止に留意。できるだけ、密な場所は、避ける。
- ②お手伝い（お役立ち）〔自立支援〕…掃除、洗濯ものの干し・たたみ、食器洗い・拭き。
- ③おやつ企画、食事企画

(2) 重大事故 発生なし

(3) 取り組み状況と今後の取り組み

- ①レビー小体型認知症のMさん：夜間不眠で薬も効かず、効いた日は、日中に差支えて辛そうな状態。家族が疲弊し泊りを増やしたがホームでも眠れず、転倒が続く。家族は在宅をあきらめそうになったが、レビー小体型認知症は自律神経が乱れやすい事に焦点を当て、寝る前は毎日足湯をする事にした。結果、自立神経が整い、毎日良眠になり、ケア方法（足湯）を在宅に持ち帰り、自宅でもよく眠るようになった。在宅生活の継続ができ、これだけ眠れるなら、薬もいらないと薬をやめる事ができた。

	認知症リーダー研修修了者の職員がいる事で認知症それぞれ病態を把握し科学的に理解し、本当の課題に向き合う事が出来た事例。 ②重度認知症のHさん：毎日、自宅で転倒するので夫は疲弊してケアマネに施設を勧められていた。施設見学している時に、あすならホーム畝傍に小規模多機能というサービスを知り、多機能登録となった。介護しやすい環境(超低床ベット)を整えたり、泊り(1泊2日×2と通い+随時訪問)を増やしたりすることと転倒しても、随時対応できる多機能を利用する事で現在も在宅生活が継続でき、娘から見ても「父に笑顔が戻ってよかった。妥協しなくなかったので多機能を選んでよかった。まだまだがんばれそうです」と言葉を頂いた。 6. 防災関連 (1) 消防訓練…年2回、 (2) 自然災害…10月1日(地震防災訓練) 3月11日(水災害避難訓練) (3) 防災感染症対策委員会…1月 7. 情報(新聞記事から) (1) 在宅避難 携帯トイレの備えを (2) 頼れる身寄りがない高齢者の公的支援の模索 (3) 2022年健康寿命 (4) 2024年介護事業者の倒産 8. 外部評価の実施 (1) 事前に会議参加メンバーへ配布した「小規模多機能型居宅介護 サービス評価 総括表」に基づき、事務局から要旨を説明した。 (2) 「総括表」に基づき、会議参加メンバーに意見を求め、質疑応答や意見交換をおこなった。
今後の予定	◎ホームの予定 (1) 新設の看護小規模多機能型居宅看護サービス及び新サロンスペースは、2025年6月事業開始予定。 (2) 春のあすなら学習会 日程：4月25日(金)、5月17日(土)、6月18日(水)、6月30日(月) 時間は夫々10:30~12:00
評価・要望・意見等	1. 利用者・家族 - 施設内の掃除などのお手伝いをしているが、自分自身、お役に立てていることが嬉しい。 2. 地域代表・地域住民・行政 [外部評価関連] (1) 「B. 事業所のしつらえ・環境」 - 改善計画に記載の自宅のしつらえについて、具体例を教えてほしい。 ⇒職員都合のパットなどの置き場所、ケアに関する掲示物などに配慮 (2) 「D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み」 - 画一的な取り組みではなく、利用者個々の対応していることが良い。 - 馴染みの職員が訪問することで安心感を与えられることが良い。 [その他] - 介護相談について、どのような状態になったら、いつ、どこに相談したらいいのか分からない方が多いと思うので、あすならホーム畝傍のように何でも

	相談できる場所があれば安心である。
その他必要な事項	◎身体的拘束等の適正化のための対策を検討する委員会等 1. 2016 年 7 月から業務会議の中で、定期的に虐待防止委員会（2023 年度：半年に 1 回）、身体拘束適正化委員会（2023 年度：3 か月に 1 回開催。）を開催し、入居者の行動を制限するような事例の有無を報告している。また、虐待防止及び身体拘束適正に関する学習（2024 年度：年 2 回＜①6・7 月（個人情報保護含む）②2025 年 2 月＞）を実施。 2. 2016 年 7 月以降、緊急やむ得ない場合も含め、2025 年 3 月現在、入居者・利用者の行動を制限するような事例は発生していないことを報告した。

次回開催予定：2025 年 5 月 16 日（金）（場所：あすならホーム畝傍 新サロンスペース）

あすならホーム畝傍 小規模多機能型居宅介護 運営推進会議議事録

開催日時	2025 年 1 月 17 日（金） 10：00～11：45																																						
運営推進会議メンバー （参加者）	1. 利用者、家族：0 名＜参加予定者は健康上の都合から急遽欠席＞ 2. 地域代表：4 名（民生委員会長）、（老人会会長）、（まちかどネット畝傍 2 名） 3. 市・包括職員：1 名（樫原市地域包括支援センター 南エリア） 4. 職員：3 名																																						
利用者登録状況 （1 月 15 日現在）	1. グループホーム：18 名 2. 小規模多機能型居宅介護：29 名 3. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護：59 名 4. 訪問看護：20 名 5. ケアプランセンター：82 名（要介護） ＜小規模多機能の利用者の介護度＞ <table><tr><td></td><td>要支援</td><td>要支援</td><td>要介護</td><td>要介護</td><td>要介護</td><td>要介護</td><td>要介護</td><td>要介護</td><td>合計</td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td></td><td></td></tr><tr><td>12 月</td><td>1</td><td>0</td><td>5</td><td>3</td><td>8</td><td>5</td><td>7</td><td></td><td>29</td></tr></table> ※平均介護度は 3.08 の状況 ※泊り平均 8.3 人 通い平均 17.9 人										要支援	要支援	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	合計		1	2	1	2	3	4	5			12 月	1	0	5	3	8	5	7		29
	要支援	要支援	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	合計																														
	1	2	1	2	3	4	5																																
12 月	1	0	5	3	8	5	7		29																														
報告事項	◎ホームの取り組み 1. 参加者の数名は、運営推進会議の参加が初めてとなる方がおられるため、あらためて「運営推進会議」、法人「社会福祉法人協同福祉会」及び「あすならホーム畝傍」の概要を説明した。 2. 地域貢献活動について <u>サロン活動</u> （1）ランチ企画 月 6 回（0 と 5 のつく日）実施。 ①目的…家での閉じこもり生活を開放し、社会性を保つと同時に、栄養状態の維持・改善に寄与する。 ②運営 1）新型コロナウイルス感染防止に留意。2）自宅での閉塞感の解消と健康づくりのため、リハビリ体操と口腔体操に取り組む。 3）暮らしの知恵を学び、生活に役立てるため、毎月テーマ「ヒートショック予防」などを決め、学習や情報提供に取り組む。 ③現状…毎回、17 名前後の地域の方が参加。 <u>つながり連絡員制度</u> ・安心を届けるため、サロン活動へのお誘い、安否確認（脱水・熱中症、自然災害） <u>学習会・その他</u> （1）春と秋の「あすなら学習会」を春 3 回、秋 4 回実施。お役立ち情報の学習、あすならホーム畝傍の喜ばれた事例紹介、ならコープの商品紹介、意見交流。 秋の学習会…10 月～11 月に 4 回開催し、66 人が参加した。 （2）福祉講演会（法人）…毎年、年 2 回開催。 （3）福祉学習会（法人）…年 4 回程度、テーマを設定し県内各地で開催。 （4）買い物支援…買い物に不便さを抱える人のために、ならコープの商品を積んだトラックが週 1 回（土曜日）、「移動店舗」が巡回。 （5）ユニバーサル就労…精神的・社会的な要因で就労に困難を抱える方に対する就労支援。2 月から、新規の就労者を受け入れる予定。																																						

	6. 防災関連 (1) 消防訓練…年 2 回、 (2) 自然災害…10 月 1 日（地震防災訓練）3 月 11 日（水災害避難訓練） (3) 防災感染症対策委員会…1 月 7. 情報（新聞記事から） (1) 県内の 2023 年度高齢者虐待状況 (2) 2024 年度介護事業者の倒産状況 (3) 2022 年健康寿命推計値 8. 外部評価の実施 (1) 事前に会議参加メンバーへ配布した「事業所自己評価」に基づき、事務局から要旨を説明した。 (2) 「外部評価 地域かかわりシート①」に基づき、会議参加メンバーから意見を求めた。 (3) 次回の会議で、「サービス評価 総括表」を提示するため、「外部評価 地域かかわりシート①」を回収した。
今後の予定	◎ホームの予定 (1) 新設の看護小規模多機能型居宅看護サービス及び新サロンスペースの建設。2025 年 6 月事業開始予定。 (2) 春のあすなら学習会 (3) 小規模多機能型居宅介護の外部評価 ・3 月 21 日の運営推進会議で、「サービス評価 総括表」を提示し、意見をいただき、内容を確認する。そして、評価を公表。
評価・要望・意見等	1. 利用者・家族 ＜参加予定者は健康上の都合から急遽欠席＞ 2. 地域代表・地域住民・行政 [外部評価関連] ①「事業所自己評価」 ・「あまりできていない」ことは事実として認め、改善していくことが大切。 ・日常では「できている」ことが、忙しくて記録が十分に残すことが出来ていないため、改めて評価をした場合、「あまりできていない」が多くカウントされている可能性がある。そのため、日常の記録が容易にできる工夫をすれば「できている」ことが見える化されるのでは。例えば、記録の抜け落ち・記入の負担を減らす為、簡素化されたシートを作成するのはどうか。長々と記録するのではなく、「○」等をつけて記録できる事項もある。 ②「地域かかわりシート①」の F. 事業所の防災・災害対策 ・防災訓練をしていることは知っているが、職員・利用者以外は、あまり参加できていない。ランチ企画の日程と防災訓練の日程が重なる場合、今後、声掛けをしてほしい。 ・施設としての備蓄はおいているのか、また備蓄量は？ ③「地域かかわりシート①」の地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み ・「事業所自己評価」での意見とも共通するが、具体的な事例をその都度、記録として記載する工夫をすれば。 ・あすならホーム畝傍が「福祉避難所」として知られていない。地域への周知が必要ではないか。 [その他] ・事業所は利用者の病院受診の際、マイナンバー保険証対応はどのようにしているのか。

3. 樫原市地域包括ケアシステム連絡会の取り組み

- (1) 当会は、地域包括ケアシステム構築のため、樫原市内の地域密着型サービス事業所が連携し、学習や交流を通じて、職員のケアの質の向上、事業経営・運営の能力の向上を進め、樫原市民に貢献し、住み慣れた地域で安心して暮らせることを目指す。2021年12月17日発足。主な活動…事業者間の学習、交流。年4回程度。
- (2) 8月30日学習会開催。テーマ「認知症の人の意思決定支援、ACP」（講師：加納麻子医師＜社会医療法人平和会吉田病院＞）。23名の参加があった。
- (3) 2025年1月28日10:00～12:00講演会開催予定。（奈良県社会福祉総合センター第5会議室）。テーマ「認知症のある方が住み慣れた街で安心して暮らせるために備えたい理解」（講師：大石 智（北里大学医学部精神科学講師））

4. 感染症予防：

(1) 新型コロナウイルス対策＜with コロナ＞

①現状 12月末、職員1名陽性

②予防 1) 利用者…定期的なワクチン接種 11月5日

2) 職員…ワクチン接種の奨励。発熱時の報告と受診。家族の発熱時の報告。

3) 面会…発生時の中止。通常において、居室での家族との面会は感染予防の上、15分以内。面会時間が15分以上の場合、面会者が3人以上の場合は、サロンにて。フロアーは厳禁。

(2) インフルエンザ

①現状…12月末から1月21日まで、職員及び利用者で陽性

予防接種…利用者（グループホーム等）11月5日。職員：11月12日。

(3) ノロウイルス

・処置備品の在庫確認と処置訓練

(4) 会議、研修など

①事業所…感染対策委員会（年2回）、感染症研修（年2回）

②法人…感染症予防対策委員会（11月）、全体会議（秋）

5. 利用者に対する取り組み…「たより」参照

(1) 入居者の様子

①お出かけ… 原則、制限なし。ただし、感染防止に留意。できるだけ、密な場所は、避ける。

②お手伝い（お役立ち）〔自立支援〕…掃除、洗濯ものの干し・たたみ、食器洗い・拭き。

③おやつ企画、食事企画

(2) 重大事故 発生なし

(3) 取り組み状況と今後の取り組み

①12月13日（金）～新規利用者（男性）の利用開始。県立リハビリ病院からの退院された後、泊り利用で開始。日常では生活リハビリ実施。ピックアップ歩行器でご自身のペースで歩行。12月18日（水）に退院後初めて自宅へ帰る事ができた。自宅へ到着して、居室のベッドに腰かけた時に帰宅できたことへの嬉しさから涙を流されていた。これからも自宅での時間をゆっくりと過ごせるように、ホームでの生活リハビリを継続する。

②1月5日（日）、女性の利用者ご逝去。長年のご利用でした。昨年12月中旬辺りから眠る時間が増加し、食事や水分摂取も少しずつ難しくなった。「看取り」への不安があった家族とも都度状況報告と相談しながらご対応させていただいた。並行して主治医の先生にも状況報告をして1月4日に往診。その日は昼食を完食。最期まで本人らしく過ごされた。家族からも「こんな幸せな最期を迎えられてあすならさんに感謝の気持ちでいっぱいです」と感謝のお言葉を頂きました。

	・看取りについて、独居の方で親族が近くにおられない方はどのような看取りをするのか。 ・介護の職員不足について、職員給与が国からの報酬が基本となっているので、これからも改善の見通しは持てないのでは。 ・今後。要介護1.2の家事援助の見直し、要支援のサービス内容が気になる。 ・高齢者へのやさしい言葉かけが大切。また、職員同士の業務の引継ぎがなされることも大切。 ・ランチ企画の参加者は「お客さん」ではないので、できることしてもらうことが大切。地域で防災などの知識をもっている人材がいるので、講師として活用することを検討すべき。
その他必要な事項	◎身体的拘束等の適正化のための対策を検討する委員会等 1. 2016年7月から業務会議の中で、定期的に虐待防止委員会（2023年度：半年に1回）、身体拘束適正化委員会（2023年度：3か月に1回開催。）を開催し、入居者の行動を制限するような事例の有無を報告している。また、虐待防止及び身体拘束適正に関する学習（2024年度：年2回＜①6・7月（個人情報保護含む）②2025年2月＞）を実施。 2. 2016年7月以降、緊急やむ得ない場合も含め、2025年1月現在、入居者・利用者の行動を制限するような事例は発生していないことを報告した。

次回開催予定：2025年3月21日（金）外部評価含む（場所：あすならホーム畝傍 サロンスペース）



あすならホーム畝傍 小規模多機能型居宅介護 運営推進会議議事録

開催日時	2024 年 11 月 8 日（金）10：00～11：15																																			
運営推進会議メンバー （参加者）	1. 利用者、家族：1 名 2. 地域代表：3 名（民生委員会長）、（まちかどネット畝傍 2 名） 3. 市・包括職員：1 名（橿原市地域包括支援センター 南エリア） 4. 職員：5 名																																			
利用者登録状況 （11 月 7 日現在）	1. グループホーム：18 名 2. 小規模多機能型居宅介護：28 名 3. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護：55 名 4. 訪問看護：22 名 5. ケアプランセンター：76 名（要介護） ＜小規模多機能の利用者の介護度＞ <table><tr><td></td><td>要支援</td><td>要支援</td><td>要介護</td><td>要介護</td><td>要介護</td><td>要介護</td><td>要介護</td><td>合計</td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td></td></tr><tr><td>11 月</td><td>1</td><td>0</td><td>5</td><td>3</td><td>7</td><td>8</td><td>5</td><td>29</td></tr></table> ※平均介護度は 3.05 の状況 ※泊り平均 7.9 人 通い平均 18.0 人										要支援	要支援	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	合計		1	2	1	2	3	4	5		11 月	1	0	5	3	7	8	5	29
	要支援	要支援	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	合計																												
	1	2	1	2	3	4	5																													
11 月	1	0	5	3	7	8	5	29																												
報告事項	◎ホームの取り組み 1. 参加者の数名は、運営推進会議の参加が初めてとなる方がおられるため、あらためて「運営推進会議」、法人「社会福祉法人協同福祉会」及び「あすならホーム畝傍」の概要を説明した。 2. 地域貢献活動について サロン活動 （1）ランチ企画 月 6 回（0 と 5 のつく日）実施。 ①目的…家で閉じこもり生活を開放し、社会性を保つと同時に、栄養状態の維持・改善に寄与する。 ②運営 1）新型コロナウイルス感染防止に留意。2）自宅での閉塞感の解消と健康づくりのため、リハビリ体操と口腔体操に取り組む。 3）暮らしの知恵を学び、生活に役立てるため、毎月テーマ「熱中症予防」などを決め、学習や情報提供に取り組む。 ③現状…毎回、20 名前後の地域の方が参加。 つながり連絡員制度 ・安心を届けるため、サロン活動へのお誘い、安否確認（脱水・熱中症、自然災害） 学習会 （1）春と秋の「あすなら学習会」を春 3 回、秋 4 回実施。お役立ち情報の学習、あすならホーム畝傍の喜ばれた事例紹介、ならコープの商品紹介、意見交流。 秋の日程…10 月 15 日（火）、10 月 28 日（月）、11 月 11 日（月）、11 月 30 日（土） （2）福祉講演会（法人）…毎年、年 2 回開催。 （3）福祉学習会（法人）…年 4 回程度、テーマを設定し県内各地で開催。 （4）買い物支援…買い物に不便さを抱える人のために、ならコープの商品を積んだトラックが週 1 回（土曜日）、「移動店舗」が巡回。																																			

- (5) ユニバーサル就労…精神的・社会的な要因で就労に困難を抱える方に対する就労支援。11月20日から、新規の就労者を受け入れる予定。
3. 榎原市地域包括ケアシステム連絡会の取り組み
- (1) 当会は、地域包括ケアシステム構築のため、榎原市内の地域密着型サービス事業所が連携し、学習や交流を通じて、職員のケアの質の向上、事業経営・運営の能力の向上を進め、榎原市民に貢献し、住み慣れた地域で安心して暮らせることを目指す。2021年12月17日発足。主な活動…事業者間の学習、交流。年4回程度。
- (2) 8月30日学習会開催。テーマ「認知症の人の意思決定支援、ACP」（講師：加納麻子（社会医療法人平和会吉田病院 地域緩和ケアサポートきずな 緩和ケア専門医）の学習交流会を開催し、23名の参加があった。
- (3) 2025年1月28日10:00～12:00講演会開催予定。（奈良県社会福祉総合センター第5会議室）。テーマ「認知症のある方が住み慣れた地域で安心して暮らしていくために」（講師：大石 智（北里大学医学部精神科学 講師）
4. 感染症予防：
- (1) 新型コロナウイルス対策＜with コロナ＞
- ①現状 この2カ月、発生なし
- ②予防 1) 利用者…定期的なワクチン接種 11月5日
- 2) 職員…ワクチン接種の奨励。発熱時の報告と受診。家族の発熱時の報告。
- 3) 面会…発生時の中止。通常において、居室での家族との面会は感染予防の上、15分以内。面会時間が15分以上の場合、面会者が3人以上の場合は、サロンにて。フロアーは厳禁。
- (2) インフルエンザ
- ①予防接種…利用者（グループホーム等）11月5日。職員：11月12日。
- (3) ノロウイルス
- ・処置備品の在庫確認と処置訓練
- (4) 会議、研修など
- ①事業所…感染対策委員会（年2回）、感染症研修（年2回）
- ②法人…感染症予防対策委員会（11月）、全体会議（秋）
5. 利用者に対する取り組み…「たより」参照
- (1) 入居者の様子
- ①お出かけ… 原則、制限なし。ただし、感染防止に留意。できるだけ、密な場所は、避ける。
- ②お手伝い（お役立ち）〔自立支援〕…掃除、洗濯もの干し・たたみ、食器洗い・拭き。
- ③おやつ企画、食事企画
- (2) 重大事故 10月4日 行方不明 怪我なし
- (3) 取り組み状況と今後の取り組み
- ①要介護度4の54歳の第二号保険者の方を退院後～在宅支援で受入れ。遺伝性ニューロパチーの既往があり（※筋萎縮、感覚障害、筋力低下の症状があり）。現在は病状から、本人の5匹の猫との共同生活は、難しいと言われていた。デイサービスのように、定時に定期的に同年代で集うような事は本人に不向きであったが、多機能では自身のタイミングで通い、急に不安になった時などに泊りお受入れする事が出来たり、通いの日であっても居室が確保できることから、プライベート空間を保ちながら、通い提供ができるので、本人も無理せず通っている。通う日と家の日を作り、家の日は多機能職員が訪問させて頂いて支援をする事を行っており、本人の唯一家族である猫との共同生活が再開できた。
- ※現在第二号保険者が2名お受入れさせて頂いる。
- ②認知症リーダー研修について、受講。認知症ケアのチームビルディングについて学ぶ機会となっており有意義な時間になっている。認知症対応をさらに強化し、地域で安心して頂ける、高度な認知症の対応やプランニングも「あすなら」だと言って頂けるよう認知症対応を強化した施設の存在を目指して

	いく。 6. 防災関連 (1) 消防訓練…年2回、 (2) 自然災害…10月1日(地震防災訓練) 3月11日(水災害避難訓練) (3) 防災感染症対策委員会…1月
今後の予定	◎ホームの予定 (1) 8月中旬から、看護小規模多機能型居宅看護サービス及び新サロンスペースの建設。2025年6月事業開始予定。 (2) 秋のあすなら学習会…10月～11月、4回
評価・要望・意見等	1. 利用者・家族 ・小規模多機能のサービスを利用して、安心して暮らすことができている。職員も親切に対応してくれる。 2. 地域代表・地域住民・行政 (1) ランチ企画のボランティアに関わっている。娘が写真の趣味があり最近、洞川を訪問。最近、年相応に筋力が衰えてきているが、自転車で出かけて健康維持につなげている。 (2) 以前、介護施設のイメージは拘束が常識と思っていた。しかし、ランチ企画であすならホーム畝傍に参加しているが、この施設は明るい雰囲気である。施設利用者のできることを残し、元気で過ごしてもらい、できるだけ自宅で過ごしてもらえるケアは良い。本人、家族、職員の連携が大切。 (3) 高齢者を狙った悪徳商法が増加傾向にあるが、実際、屋根の修繕を装った訪問販売を経験し、難を逃れた。対応としては、敷地に入れないこと、判断が付かないことは断ることが大切である。 (4) 地域包括支援センターと「街の介護相談室」はランチの取り組みでつながり、課題を分析していく。また、地域での顔の見える関係が、ますます大切になっている。そして、地域密着型サービスの必要性が高まっている。
その他必要な事項	◎身体的拘束等の適正化のための対策を検討する委員会等 1. 2016年7月から業務会議の中で、定期的に虐待防止委員会(2023年度:半年に1回)、身体拘束適正化委員会(2023年度:3か月に1回開催。)を開催し、入居者の行動を制限するような事例の有無を報告している。また、虐待防止及び身体拘束適正に関する学習(2024年度:年2回<①6・7月(個人情報保護含む)②2025年2月>)を実施。 2. 2019年9月28日以降、緊急やむ得ない場合も含め、2024年11月現在、入居者・利用者の行動を制限するような事例は発生していないことを報告した。

次回開催予定: 2025年1月17日(金) 外部評価含む(場所: あすならホーム畝傍 サロンスペース)



あすならホーム畝傍 小規模多機能型居宅介護 運営推進会議議事録

開催日時	2024 年 9 月 13 日（金）10：00～11：30																																						
運営推進会議メンバー （参加者）	1. 利用者、家族：1 名（利用者） 2. 地域代表：2 名（民生委員会長）、（まちかどネット畝傍 1 名） 3. 市・包括職員：1 名（榎原市長寿介護課） 4. 職員：2 名																																						
利用者登録状況 （9 月 13 日現在）	1. グループホーム：18 名 2. 小規模多機能型居宅介護：28 名 3. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護：55 名 4. 訪問看護：22 名 5. ケアプランセンター：82 名（要介護） ＜小規模多機能の利用者の介護度＞ <table><tr><td></td><td>要支援</td><td>要支援</td><td>要介護</td><td>要介護</td><td>要介護</td><td>要介護</td><td>要介護</td><td>要介護</td><td>合計</td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td></td><td></td></tr><tr><td>9 月</td><td>1</td><td>0</td><td>5</td><td>3</td><td>1 1</td><td>3</td><td>5</td><td></td><td>2 8</td></tr></table> ※平均介護度は 2.87 の状況 ※泊り平均 7.7 人 通い平均 17.5 人										要支援	要支援	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	合計		1	2	1	2	3	4	5			9 月	1	0	5	3	1 1	3	5		2 8
	要支援	要支援	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	合計																														
	1	2	1	2	3	4	5																																
9 月	1	0	5	3	1 1	3	5		2 8																														
報告事項	◎ホームの取り組み 1. 参加者の数名は、運営推進会議の参加が初めてとなる方がおられるため、あらためて「運営推進会議」、法人「社会福祉法人協同福祉会」及び「あすならホーム畝傍」の概要を説明した。 2. 地域貢献活動について サロン活動 （1）ランチ企画 月 6 回（0 と 5 のつく日）実施。 ①目的…家での閉じこもり生活を開放し、社会性を保つと同時に、栄養状態の維持・改善に寄与する。 ②運営 1) 新型コロナウイルス感染防止に留意。2) 自宅での閉塞感の解消と健康づくりのため、リハビリ体操と口腔体操に取り組む。 3) 暮らしの知恵を学び、生活に役立てるため、毎月テーマ「熱中症予防」などを決め、学習や情報提供に取り組む。 ③現状…毎回、20 名前後の地域の方が参加。 つながり連絡員制度 ・安心を届けるため、サロン活動へのお誘い、安否確認（脱水・熱中症、自然災害） 学習会 （1）春と秋の「あすなら学習会」を春 3 回、秋 3 回実施。お役立ち情報の学習、あすならホーム畝傍の喜ばれた事例紹介、ならコープの商品紹介、意見交流。 秋の日程…10 月 15 日（火）、10 月 28 日（月）、11 月 11 日（月）、11 月 30 日（土） （2）福祉講演会（法人）…毎年、年 2 回開催。 （3）福祉学習会（法人）…年 4 回程度、テーマを設定し県内各地で開催。 （4）買い物支援…買い物に不便さを抱える人のために、ならコープの商品を積んだトラックが週 1 回（土曜日）、「移動店舗」が巡回。 （5）ユニバーサル就労…精神的・社会的な要因で就労に困難を抱える方に対する就労支援																																						



3. 橿原市地域包括ケアシステム連絡会の取り組み

- (1) 当会は、地域包括ケアシステム構築のため、橿原市内の地域密着型サービス事業所が連携し、学習や交流を通じて、職員のケアの質の向上、事業経営・運営の能力の向上を進め、橿原市民に貢献し、住み慣れた地域で安心して暮らせることを目指す。2021年12月17日発足。主な活動…事業者間の学習、交流。年4回程度。
- (2) 8月30日、「認知症の人の意思決定支援、ACP」（講師：加納麻子（社会医療法人平和会吉田病院 地域緩和ケアサポートきずな 緩和ケア専門医）の学習交流会を開催し、23名の参加があった。

4. 感染症予防：

(1) 新型コロナウイルス対策＜with コロナ＞

- ①現状：グループホームで8月末、職員及び入居者、計3名でコロナ陽性、10日間で制限解除。
- ②予防：①利用者…10月以降、ワクチン接種。②職員…本人、発熱時の報告と受診。家族の発熱時の報告。3) 面会…発生時の中止。通常において、居室での家族との面会は感染予防の上、15分以内。面会時間が15分以上の場合、面会者が3人以上の場合は、サロンにて。フロアーは厳禁。

(2) インフルエンザ

- ・毎年秋に、利用者及び職員を対象に予防接種。

(3) ノロウイルス

- ・処置備品の在庫確認と処置訓練

(4) 会議、研修など

- ①事業所…感染対策委員会（年2回）、感染症研修（年2回）
- ②法人…感染症予防対策委員会（11月）、全体会議（秋）

5. 利用者に対する取り組み…「たより」参照

(1) 入居者の様子

- ①お出かけ… 原則、制限なし。ただし、感染防止に留意。できるだけ、密な場所は、避ける。
- ②お手伝い（お役立ち）〔自立支援〕…掃除、洗濯もの干し・たたみ、食器洗い・拭き。
- ③おやつ企画、食事企画

(2) 重大事故

9月5日 平成記念病院受診（整形外科） 大腿部頸部骨折の診断

(3) 取り組み状況と今後の取り組み

- ①病院からの相談時点では、入院中、介護保険申請中の方で、申請中であるとなかなか受け入れが難しいものであるが、そうすると1ヶ月ほど退院が伸びてしまい、生活する勘や体力が更に落ちてしまう危惧がある。そのため、早期退院をするほうがその対象者の為になると判断し、地域貢献的な観点から、介護度が決まっていない、早期段階でお受け入れする事にした。寝たきりで、点滴等の医療的なフォローも必要な方ですが、あすならホーム畝傍での利用では、ベッドの上だけではなく、馴染みの耳成山の景色や、自宅のような自由な環境で「あこを見たい、ここにいきたい」とベッドから出た生活は気持ちが明るく過ごせるようである。表情がとてよくなってきており、慣れた環境や本人の意思が通りやすい自由が利く環境は大切だと感じている。また、受け入れ前に過去をしっかりと伺ったり、自宅訪問を行い、本人を知り、本人らしい本人主体のケアプランにする事で、本人も前を向き、希望を持っていたらいいようである。私たちが関わったからこそ、以前の生活を取り戻してほしいと思っている。今は寝たきりですが、必ず、「難波の囲碁センターに行く」とケアプランを立てている。病院ではもう離床は難しいと言われていたが、現在離床して食事を召し上がっている。
- ②小規模多機能の管理者は、認知症リーダー研修を受講中で、認知症ケアのチームビルディングについて学ぶ機会となっており有意義な時間になって

	いる。認知症対応をさらに強化し、地域で安心して頂ける、高度な認知症の対応やプランニングも「あすなら」だと言って頂けるよう認知症対応を強化した施設の存在を目指していく。 6. 防災関連 (1) 消防訓練…年2回、 (2) 自然災害…10月1日(地震防災訓練) 3月11日(水災害避難訓練) (3) 防災感染症対策委員会…1月
今後の予定	◎ホームの予定 (1) 8月中旬から、看護小規模多機能型居宅看護サービス及び新サロンスケースの建設 (2) 秋のあすなら学習会…10月～11月
評価・要望・意見等	1. 利用者・家族 ・あすならホーム畝傍では、24時間対応してもらえることができるので、安心して利用している。糖尿病に罹患しているので、食事量や内容をコントロールしてもらっている。職員は親身になって対応してくれて感謝している。 2. 地域代表・地域住民・行政 (1) 今後、高齢になるので、自分の生活をどうしていくのかを改めて考える必要があると感じた。ランチ企画やサロン活動に関わっていることが、励みとなっている。また、参加することで学ぶことができる。新しいサロンで新たな出会いを楽しみにしている。 (2) 今年の6月、妻の母が逝去し、自分の健康は自分で守る大切さを実感している。睡眠時の持病があるので、根気強く、継続する必要がある、ようやく、治療処置に慣れてきた。 (3) 今年は、気温の高い状況が継続しているので、熱中症に気を付けていただきたい。特に、高齢者は気づくのが遅れたりしがちなので、熱中症に掛からないための予防が大切となっている。また、近年、気候温暖化の影響もあり、台風が大型化しているので、情報を知り、適切で早めの対応が必要である。行政においても、今回の台風第10号の接近に伴い、被災地域が広範囲に及ぶとともに、緊急的な対応が必要になることが想定されるので、緊急的な対応として、介護報酬等の柔軟な取扱い(基準緩和等)についての通知をおこなった。
その他必要な事項	◎身体的拘束等の適正化のための対策を検討する委員会等 1. 2016年7月から業務会議の中で、定期的に虐待防止委員会(2023年度:半年に1回)、身体拘束適正化委員会(2023年度:3か月に1回開催。)を開催し、入居者の行動を制限するような事例の有無を報告している。また、虐待防止及び身体拘束適正に関する学習(2024年度:年2回<①6・7月(個人情報保護含む)②2025年2月>)を実施。 ・6月及び7月に「虐待防止及び身体拘束適正に関する学習資料」に基づき、学習をした。 2. 2016年7月以降、緊急やむを得ない場合も含め、2024年9月現在、入居者・利用者の行動を制限するような事例は発生していないことを報告した。

次回開催予定:2024年11月8日(金)(場所:あすならホーム畝傍 サロンスペース)

あすならホーム畝傍 小規模多機能型居宅介護 運営推進会議議事録

開催日時	2024年7月19日（金）10：00～11：30																																			
運営推進会議メンバー （参加者）	1. 利用者、家族：0名＜参加予定者は健康上の都合から急遽欠席＞ 2. 地域代表：4名（民生委員会長）（老人会会長）、（まちかどネット畝傍 2名） 3. 市・包括職員：1名（橿原市長寿介護課） 4. 職員：3名																																			
利用者登録状況 （7月17日現在）	1. グループホーム：18名 2. 小規模多機能型居宅介護：29名 3. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護：52名 4. 訪問看護：21名 5. ケアプランセンター：79名（要介護） ＜小規模多機能の利用者の介護度＞ <table><tr><td></td><td>要支援</td><td>要支援</td><td>要介護</td><td>要介護</td><td>要介護</td><td>要介護</td><td>要介護</td><td>合計</td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td></td></tr><tr><td>7月</td><td>1</td><td>0</td><td>5</td><td>4</td><td>9</td><td>3</td><td>7</td><td>29</td></tr></table> ※平均介護度は 3.0 の状況 ※泊り平均 8.0人 通い平均 18.0人										要支援	要支援	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	合計		1	2	1	2	3	4	5		7月	1	0	5	4	9	3	7	29
	要支援	要支援	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	合計																												
	1	2	1	2	3	4	5																													
7月	1	0	5	4	9	3	7	29																												
報告事項	◎ホームの取り組み 1. 参加者の数名は、運営推進会議の参加が初めてとなる方がおられるため、あらためて「運営推進会議」、法人「社会福祉法人協同福祉会」及び「あすならホーム畝傍」の概要を説明した。 2. 地域貢献活動について <u>サロン活動</u> （1）ランチ企画 月6回（0と5のつく日）実施。 ①目的…家での閉じこもり生活を開放し、社会性を保つと同時に、栄養状態の維持・改善に寄与する。 ②運営 1）新型コロナウイルス感染防止に留意。2）自宅での閉塞感の解消と健康づくりのため、リハビリ体操と口腔体操に取り組む。 3）暮らしの知恵を学び、生活に役立てるため、毎月テーマ「熱中症予防」などを決め、学習や情報提供に取り組む。 ③現状…毎回、20名前後の地域の方が参加。 <u>つながり連絡員制度</u> ・安心を届けるため、サロン活動へのお誘い、安否確認（脱水・熱中症、自然災害） <u>学習会</u> （1）春と秋の「あすなら学習会」を春3回、秋3回実施。お役立ち情報の学習、あすならホーム畝傍の喜ばれた事例紹介、ならコープの商品紹介、意見交流。 ・4月30日（火）22人、5月28日（火）15人、6月25日（火）28人 計65人の参加 （2）福祉講演会（法人）…毎年、年2回開催。 （3）福祉学習会（法人）…年4回程度、テーマを設定し県内各地で開催。 （4）買い物支援…買い物に不便さを抱える人のために、ならコープの商品を積ん																																			

だトラックが週2回（火曜日と土曜日）、「移動店舗」が巡回。

→8月から週1回（土曜日）に変更

(5) ユニバーサル就労…精神的・社会的な要因で就労に困難を抱える方に対する就労支援

3. 榎原市地域包括ケアシステム連絡会の取り組み

(1) 当会は、地域包括ケアシステム構築のため、榎原市内の地域密着型サービス事業所が連携し、学習や交流を通じて、職員のケアの質の向上、事業経営・運営の能力の向上を進め、榎原市民に貢献し、住み慣れた地域で安心して暮らせることを目指す。2021年12月17日発足。主な活動…事業者間の学習、交流。年4回程度。

(2) 8月30日、「認知症の人の意思決定支援、ACP」の学習交流会を開催。

4. 感染症予防：

(1) 新型コロナウイルス対策＜with コロナ＞

①現状：5月、7月において、職員及び利用者・入居者でコロナ陽性。

②予防：①利用者…定期的なワクチン接種。②職員…ワクチン接種の奨励。発熱時の報告と受診。家族の発熱時の報告。3) 面会…発生時の中止。通常において、居室での家族との面会は感染予防の上、15分以内。面会時間が15分以上の場合、面会者が3人以上の場合は、サロンにて。フロアは厳禁。

(2) インフルエンザ

・毎年の秋に、利用者及び職員を対象に予防接種。

(3) ノロウイルス

・処置備品の在庫確認と処置訓練

(4) 会議、研修など

①事業所…感染対策委員会（年2回）、感染症研修（年2回）

②法人…感染症予防対策委員会（11月）、全体会議（秋）

5. 利用者に対する取り組み…「たより」参照

(1) 入居者の様子

①お出かけ…原則、制限なし。ただし、感染防止に留意。できるだけ、密な場所は、避ける。

②お手伝い（お役立ち）[自立支援]…掃除、洗濯もの干し・たたみ、食器洗い・拭き。

③おやつ企画、食事企画

(2) 重大事故 この2カ月間、発生なし。

(3) 取り組み状況と今後の取り組み

①重度認知症で要介護3の女性。以前より、小規模多機能で相談を受けており、登録の待機をして頂いていたがその間、家族は疲弊し、他の施設に入所する事になった。しかし、入所したとたんに入眠剤の服用を進められ、(3日目)で本人のADLの顕著な低下あり、家族は後悔し、退居。認知症に特化している小規模多機能で再度、本人を受け入れてほしいと依頼を受ける。7月12日に受け入れし、1週間連泊。3日程で改善。笑顔が見られ、発語も出てくる。家族の就労に合わせて(通い朝8時～20時まで受け入れ)(仕事が忙しい4週目だけ1週間泊る。)(自宅の日どうしようもなかったら、駆けつけ)等ショートデイでは対応できない柔軟さで対応するとプランニングし、家族は前向きになり、来週在宅復帰予定である。通い、泊りの場所が一つであるという事も今後、利用に安心していただける要素になる。

②小規模多機能の管理者が認知症リーダー研修を受講中。認知症対応をさらに強化し、地域で安心して頂ける、高度な認知症のご対応やプランニングも「あすならホーム畝傍」だと言って頂けるよう認知症対応を強化した施設の存在を目指していく。

③引き続き、感染症予防を職員一同努めている。

	6. 防災関連 (1) 消防訓練…年 2 回、 (2) 自然災害…9 月 1 日 (地震防災訓練) 3 月 11 日 (水災害避難訓練) (3) 防災感染症対策委員会…1 月
今後の予定	◎ホームの予定 (1) 新設 看護小規模多機能型居宅看護サービスの建設 ①8 月 8 日：地鎮祭 ②8 月中旬：建設開始 (2) グループホーム家族懇親会…秋予定 (3) 秋のあすなら学習会…10 月～12 月
評価・要望・意見等	1. 利用者・家族 <参加予定者は健康上の都合から急遽欠席> 2. 地域代表・地域住民・行政 (1) 介護予防の観点から、各地域の身近な所 (集会所、公民館等) を開放し、気軽に参加できる場所を拡充していくことが大切になる。 (2) 身内での介護経験から、「約 7 年間、旦那が奥さんを介護し、その後、看取った。ひと段落すると思っていたが、奥さんの後を追うように亡くなった」。夫婦の場合、奥さんが先立たれると旦那の気持ちがダウンすることを実感した。 (3) 最近、高齢者用のおむつを購入する姿を普通に見かけるようになった。身内の介護経験から防水シートも必需品である。若い年齢層も大切だが、高齢者層の支援も大切。 (4) コロナ禍では、人との関わりが少なくなり、体力の低下及び認知症状が悪化した印象を実感した。多くのボランティア活動に参加することで介護予防にもなっているが、最近、体の衰えを実感している。 (5) 7 月から榎原市内の高齢者福祉事業所で、新型コロナウイルス陽性者が増加している。また、最近の猛暑により、熱中症の症状を訴える市民が増加しているので、厚生労働省発行の「熱中症予防のために」チラシを参考にして、夏本番に備えてほしい。
その他必要な事項	◎身体的拘束等の適正化のための対策を検討する委員会等 1. 2016 年 7 月から業務会議の中で、定期的に虐待防止委員会 (2023 年度：半年に 1 回)、身体拘束適正化委員会 (2023 年度：3 か月に 1 回開催。) を開催し、入居者の行動を制限するような事例の有無を報告している。また、虐待防止及び身体拘束適正に関する学習 (2024 年度：年 2 回<①6・7 月 (個人情報保護含む) ②2025 年 2 月>) を実施。 ・6 月及び 7 月に学習している「虐待防止及び身体拘束適正に関する学習資料」について、説明をした。 2. 2019 年 9 月 28 日以降、緊急やむ得ない場合も含め、2024 年 7 月現在、入居者・利用者の行動を制限するような事例は発生していないことを報告した。

次回開催予定：2024 年 9 月 13 日 (金) (場所：あすならホーム畝傍 サロンスペース)



あすならホーム畝傍 小規模多機能型居宅介護 運営推進会議議事録

開催日時	2024年5月17日（金）10：00～11：30																
運営推進会議メンバー （参加者）	1. 利用者、家族：1名 2. 地域代表：3名（老人会会長）、（まちかどネット畝傍 2名） 3. 市・包括職員：1名（樫原市長寿介護課） 4. 職員：3名																
利用者登録状況 （5月16日現在）	1. グループホーム：18名 2. 小規模多機能型居宅介護：29名 3. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護：56名 4. 訪問看護：24名 5. ケアプランセンター：74名（要介護） ＜小規模多機能利用者の介護度＞ <table><tr><td></td><td>要支援2</td><td>要介護1</td><td>要介護2</td><td>要介護3</td><td>要介護4</td><td>要介護5</td><td>合計</td></tr><tr><td>5月</td><td>1</td><td>0</td><td>4</td><td>8</td><td>3</td><td>7</td><td>18</td></tr></table> ※平均介護度は 3.0 の状況		要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	5月	1	0	4	8	3	7	18
	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計										
5月	1	0	4	8	3	7	18										
報告事項	◎ホームの取り組み 1. 参加者の数名は、運営推進会議の参加が初めてとなる方がおられるため、あらためて「運営推進会議」、法人「社会福祉法人協同福祉会」及び「あすならホーム畝傍」の概要を説明した。 2. 地域貢献活動について サロン活動 （1）ランチ企画 月6回（0と5のつく日）6月から月3回で再開し、昨年10月から6回実施） ①目的…家ででの閉じこもり生活を開放し、社会性を保つと同時に、栄養状態の維持・改善に寄与する。 ②運営 1）新型コロナウイルス感染防止に留意。2）自宅での閉塞感の解消と健康づくりのため、リハビリ体操と口腔体操に取り組む。 3）暮らしの知恵を学び、生活に役立てるため、毎月テーマ「熱中症予防」などを決め、学習や情報提供に取り組む。 ③現状…毎回、20名前後の地域の方が参加。 つながり連絡員制度 ・安心を届けるため、サロン活動へのお誘い、安否確認（脱水・熱中症、自然災害） 学習会 （1）春と秋の「あすなら学習会」を春3回、秋3回実施。お役立ち情報の学習、あすならホーム畝傍の喜ばれた事例紹介、ならコープの商品紹介、意見交流。 （2）福祉講演会（法人）…毎年、年2回開催。 （3）福祉学習会（法人）…年4回程度、テーマを設定し県内各地で開催。 （4）買い物支援…買い物に不便さを抱える人のために、ならコープの商品を積んだトラックが週2回（火曜日と土曜日）、「移動店舗」が巡回。 （5）ユニバーサル就労…精神的・社会的な要因で就労に困難を抱える方に対する就労支援																



	3. 樫原市地域包括ケアシステム連絡会の取り組み (1) 当会は、地域包括ケアシステム構築のため、樫原市内の地域密着型サービス事業所が連携し、学習や交流を通じて、職員のケアの質の向上、事業経営・運営の能力の向上を進め、樫原市民に貢献し、住み慣れた地域で安心して暮らせることを目指す。2021年12月17日発足。主な活動…事業者間の学習、交流。年4回程度。 4. 感染症予防：11月～3月 感染症予防月間 (1) 新型コロナウイルス対策＜with コロナ＞ 1) 予防：①利用者…定期的なワクチン接種。②職員…ワクチン接種の奨励。発熱時の報告と受診。家族の発熱時の報告。3) 面会…居室での家族との面会は、感染予防の上、15分以内。面会時間が15分以上の場合、面会者が3人以上の場合は、サロンにて。フロアは厳禁。 (2) インフルエンザ ・毎年の秋に、利用者及び職員を対象に予防接種。 (3) ノロウイルス ・処置備品の在庫確認と処置訓練 (4) 会議、研修など ①事業所…感染対策委員会（年2回）、感染症研修（年2回） ②法人…感染症予防対策委員会（11月）、全体会議（秋） 5. 利用者に対する取り組み…「たより」参照 (1) 入居者の様子 ①お出かけ…原則、制限なし。ただし、感染防止に留意。できるだけ、密な場所は、避ける。 ②お手伝い（お役立ち）〔自立支援〕…掃除、洗濯ものの干し・たたみ、食器洗い・拭き。 ③おやつ企画、食事企画 (2) 重大事故 この2カ月間、発生なし (3) 取り組み状況と今後の取り組み ①積極的に要介護3～要介護5の方の在宅の暮らしを支えている。昨年秋口10月頃～現在まで、施設退所や退院後の受入れを強化している。 病院では『老健や施設しかない。家は無理』と言われた方が、殆どですが、在宅復帰できる事例が多くあった。慣れた親しんだ場所、慣れ親しんだ職員での生活リハビリや多機能の重要性と使命感を感じる。 ②中重度認知症・難聴であるため相互コミュニケーションをとる事が難しい利用者に、本人から時間をかけ、色々とお話を聞き、本人が分かるタイミングまで待つ事を大切にしています。 ③認知症対応をさらに強化し、地域で安心して頂ける高度な認知症の対応やプランニングも納得頂けるよう認知症対応を強化した施設の存在を目指す。 (4) 引き続き、感染症予防を職員一同努めている。 6. 防災関連 (1) 消防訓練…年2回、 (2) 自然災害…9月1日（地震防災訓練）3月11日（水災害避難訓練） (3) 防災感染症対策委員会…1月
今後の予定	◎ホームの予定 (1) 「春のあすなろ学習会」…5月28日（火）、6月25日（火）のいずれも10：30～12：00開催。 (2) 看護小規模多機能型居宅看護サービスの建設

評価・要望・意見等	1. 利用者・家族 (1) 本人は骨折のきっかけに、退院後、自宅での暮らしは困難であると病院から通知され、不安となった。 (2) 「あすならホーム畝傍」に相談したところ、小規模多機能のサービスを提案され、本人も家族も元気で暮らすことができ、感謝している。 2. 地域代表・地域住民・行政 (1) サロン活動でランチ企画の支援をしている。住んでいる団地も高齢化が進んでいるので、相談できる場所（あすならホーム畝傍）があることを紹介したい。 (2) 介護保険の事業サービスを受けていて認知症の方が外出する場合は、本人と家族の意向を最優先に尊重し、施設側は手伝いをする立場であることが分かった。 (3) 利用者の家族の介護経験を聞いて、家族の苦勞が身に染みた。地域包括支援センターや「街の介護相談室」など、身近で相談できる所の設置と周知が今後、求められる。 (4) 身近な所で気軽に相談できる場所を拡充していくと同時に、ご近所同士で気にかけていただき、相談につなげることも大切になる。 運営推進会議において、利用者またはその家族同士の意見交流（体験談含む）が有意義なので、可能な限り、各部門複数名以上の参加が好ましい。
その他必要な事項	◎身体的拘束等の適正化のための対策を検討する委員会等 1. 2016年7月から業務会議の中で、定期的に虐待防止委員会（2023年度：半年に1回）、身体拘束適正化委員会（2023年度：3か月に1回開催。）を開催し、入居者の行動を制限するような事例の有無を報告している。また、虐待防止及び身体拘束適正に関する学習（2024年度：年2回＜①6・7月（個人情報保護含む）②2025年2月＞）を実施。 2. 2016年7月以降、緊急やむ得ない場合も含め、2024年5月現在、入居者・利用者の行動を制限するような事例は発生していないことを報告した。

次回開催予定：2024年7月19日（金）（場所：あすならホーム畝傍 サロンスペース）